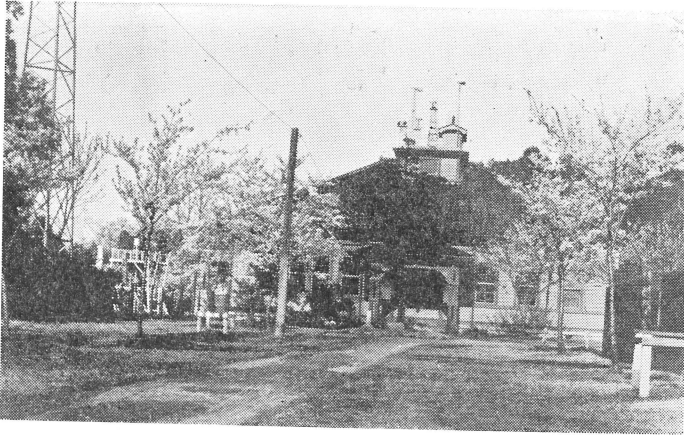


地方だより

(雪国の高田)



(春の高田測候所全景)

越後の高田と言えば雪で全国的に知られており又スキー発祥地として名高い。大雪の記録はいろいろありますが、高田藩の偉人奇人と称せられた庄田直道翁の編纂に、係る越後頸城郡誌稿の中から、霊元天皇時代寛文五己年一丈四尺又天和元酉大雪として当時高田町の上に「此下に高田ありと云ふ高札を建つれば加賀の飛脚某其の高札に書添へて次の狂歌を伝へたりと云ふ。諸国迄高く聞えし高田さへ今日来て見れば低くなりけり」とある位の雪国であります。

この雪も三月にもなると流石雪国の人々も春の来るのを待ち兼ねて戸毎に数カ月間踏み固められた岩壁のような雪を大鋸を以て切り倒し櫓にのせて附近の川又は広い空地へ運び捨てるのであります。四月ともなれば高田城趾の内濠外濠をめぐる数千株の夜桜は全国三夜景の一つと称せられ、ことにボンボリの灯影に艶めく暮夜燦爛の

眺めは筆紙に尽し得ないものがあります。

さて前おきが長くなりましたが当所は二三千米から千米の頸城連山に囲まれた頸城平野の代表点にあり、大正十一年一月十日に創立し、同日より観測業務を開始し現在に到っており、勤務職員は十三名で小世帯乍ら業務に対し黙々として精励しております。冬季に到っては一夜にして二尺余も降る雪にはしばしば観測者は泣かされ従って冬季間は業務も多くなり多忙をきわめます。すなわち電線の着雪観測鉄道沿線の降雪予報、市内道路除雪予報、雪害対策等各機関に協力し所長以下全員苦難を克服して頑張っています。又研究テーマとして雪の密度、硬度、雪質、雪温等観測しており興味ある結論を所長が研究発表されております。その一面仕事の多忙の余暇を見て全員囲碁、将棋にそして卓球に興じ笑声の中に日々を送っております。

(横山新平記)

